

計画段階評価対応方針

【ダム事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき政策目標	複数案との比較	対策方針
<p>十勝川水系十勝川における治水対策</p> <p>北海道開発局</p>	<p>・十勝川流域では平成28年8月17日～23日の1週間に3個の台風が北海道に上陸し、特に台風10号に伴う大雨により、4箇所（十勝川：芽室太千代田・茂岩、札内川：南帯橋）で計画高水位を超過し、12箇所の水位観測所で既往最高水位を記録し、音更川、札内川では河岸侵食に伴う堤防決壊が発生。</p> <p>・十勝川では、中流部の帯広市街地を含む全川的に整備計画目標流量に対して流下能力が大きく不足している。</p> <p>・十勝川では、帯広市街地、音更町市街地を中心に人口、資産が集中しており、人的リスクを含め、氾濫リスクが集中している。</p>	<p>・十勝川の治水安全度向上（平成28年8月洪水と同規模の洪水や、気候変動に伴う降雨量の増大を踏まえた目標流量について、堤防の決壊や溢水による家屋・農地の浸水被害を軽減するため、支川や上下流バランスを保ちつつ、治水安全度の向上を図る）</p>	<p>・治水対策の治水目標を達成するための複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・具体的な達成目標が達成可能で、十勝川で現状において実現可能な案であるかの観点で概略評価を行い、対策案を抽出。</p> <p>・複数の対策による組合せ案を検討し、実現性・コスト面から有利となる3案を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。</p> <p>（案1）河道掘削案 河道掘削により、河道断面積を確保する案</p> <p>（案2）遊水地（地役権）＋河道掘削案 遊水地の建設により洪水調節を行い、河道掘削量を案1より減じた案</p> <p>（案3）既存ダム有効活用＋河道掘削案 既存ダムの活用により洪水調節を行い、河道掘削量を案1より減じた案（糠平ダムを対象）</p>	<p>・3案のうち、コスト面で「（案3）既存ダムの有効活用＋河道掘削案」が最も有利であり、ほかの評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、（案3）による対策が妥当。</p>

計画段階評価対応方針

【ダム事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき政策目標	複数案との比較	対策方針
<p>太田川水系太田川における治水対策</p> <p>中国地方整備局</p>	<p>・太田川水系においては、昭和18年9月洪水、昭和47年7月豪雨、平成17年9月洪水及び平成30年7月豪雨など、およそ30年に1回の頻度で大規模な洪水が発生。</p> <p>・下流デルタ域には広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積しているもの上流の洪水調節機能が不足。</p>	<p>・太田川の治水安全度向上(太田川流域の資産の集積度や将来の気候変動の影響による降水量の増大等を踏まえ治水安全度の水準を年超過確率1/100程度とし、河道に配分する流量は計画高水流量8,000m³/sとし、目標流量を安全に流下させるために洪水調節機能を向上させ、治水安全度の向上を図る。)</p>	<p>・太田川水系河川整備計画において目指す治水安全度の水準である年超過確率1/100程度に対し、洪水氾濫による浸水被害の防止又は軽減を図ることを達成するため、複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・河川整備計画の目標を達成可能で、現状の太田川において実現可能な案で概略評価を行い、対策案を抽出。</p> <p>・複数の対策による組合せ案を検討し、実現性・コスト面から有利となる3案を抽出して、7つの評価軸(「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」)について評価した。</p> <p>(案1)河道掘削＋築堤＋引堤案 河道掘削及び築堤・引堤により河道の流下能力を向上させる案</p> <p>(案2)既設ダムの有効活用＋河道掘削＋築堤＋引堤案 既設ダムの有効活用による洪水調節機能向上とあわせて河道掘削及び築堤・引堤を実施する案</p> <p>(案3)既設ダムの有効活用＋新規ダムの建設案 既設ダムの有効活用とあわせて新規ダム建設により洪水調節機能向上を実施する案</p>	<p>・3案のうち、「(案3)既設ダムの有効活用＋新規ダムの建設案」がコスト面で最も有利であり、既設ダムの有効活用による洪水調節効果の早期発揮ができ「効果発現見込み」が早く、家屋や公共施設などの「地域社会への影響」が最小限であるため、(案3)による対策が妥当。</p>